

教育研究データ

1. 氏名	黒木 晶子		
2. 生年月	1969年9月		
3. 取得学位	教育学修士		
4. 教育業績			
教育上の能力に関する事項	年月	概要	
(1) 教育内容・方法の工夫	2009年 10月～ 2010年2月	①本学人間言語学科専門科目「日本語基礎演習Ⅱ」において、調査・発表活動を中心とした現代日本語文法に関する授業実践を行う。(この授業科目実施に際して、授業時間ごとの授業内容の要点を記した資料を作成し、受講者の理解を促進する材料とした。)	
	2009年 10月～ 2010年2月	②本学教養教育科目「人間科学基礎演習」の授業において、教員二人によるティームティーチングを行い、相互授業参観によって講義内容や講義の仕方の振り返りと改善を行う。	
(2) 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	1996年11月	①日本語教育学会平成8年度第8回研究集会において、「大学院生に必要な日本語能力養成のための教材開発の試み—教材『表現文型』の作成を中心に—」の発表を行う。(共同発表)	
5. 研究業績			
(1) 著書	単著 共著 の別	発行の年月	発行所
①もみじ—ひろしまで学ぶにほんご—	共著	1993年3月	広島県
②大学院生のための日本語表現文型	共著	1997年10月	ひろしま国際センター 研修部
(2) 学術論文	単著 共著 の別	発行の年月	掲載紙および巻/号, 頁
①反義語とは何か—より精密な意味記述のための一考察—	単著	1994年3月	『広島大学教育学部日本語教育学科紀要』第4号, 97-104
②人に助言を与える文章の構造	共著	2001年12月	『広島文教女子大学紀要』第36巻, 1-8
③日本語の文章における丁寧体と普通体の使い分けについて—学術論文にお	単著	2001年9月	『文教国文学』第45号, 110-122

ける謝辞の文章の分析を通して―			
④日本語母語話者が書いた小論文に関する―考察―丁寧体と普通体の混用についての分析を中心に―	単著	2006年2月	『文教国文学』第50号, 65-78
⑤複文における丁寧形と普通形のあらわれ方―従属節「～が」「～けれど」を含む複文の場合―	単著	2009年2月	『文教国文学』第53号, 35-43
(3) 研究・作品発表	発表の年月		発表学会等
①望ましい反義語辞典の条件についての一考察	1993年11月		中国四国教育学会第45回大会
②従属節における丁寧形のあらわれ方	2008年10月		広島文教女子大学国文学会平成20年度研究集会
(4) 所属学会			
①日本語教育学会			
②中国四国教育学会			